

考慮すべき社会の現状・変化

全国的な状況

〔現状〕

- ・人口減少・少子高齢化・過疎化の進行
- ・人生100年時代による学習ニーズの多様化
- ・成人年齢の18歳への引き下げ
- ・AIの進化等の技術革新
- ・グローバル化の進行、SDGsの達成に向けた取組の広がり
- ・新型コロナウイルス感染症等の新型感染症の影響を踏まえた社会の変化

〔30年後に予想される姿〕

- ・更なる人口減少、少子高齢化
- ・Society5.0の到来による職業や生活の変化
- ・地球温暖化や食料の逼迫等の世界規模で解決すべき課題の深刻化の可能性
- ・世界経済における日本のプレゼンスの低下

福島県の状況

〔特徴・現状〕

- ・全国3位の県土の広さ
- ・はま・なか・あいづに代表される地域ごとの多様性、豊かな文化
- ・東日本大震災からの復興・創生

〔30年後に予想される姿〕

- ・廃炉や帰還困難区域の解除、再生可能エネルギーの導入推進等復興・創生に向けた取組の継続
- ・更なる人口減少、少子高齢化による就業者数の減少や過疎化等による地域コミュニティの衰退のおそれ

福島県の教育の主な現状・課題

※詳細はSWOT分析を参照。

〔強み〕・児童生徒の問題行動の少なさ等生徒指導面での落ち着き

- ・震災からの復興・創生の過程で生まれた強み（ふるさと創造学、GAP等先進的な取組、感謝や貢献の気持ち等）

〔課題〕・算数・数学、英語が苦手、無解答率の多さ、学力の低い層の多さ等の学力の課題

- ・震災の影響等による心のケアが必要な子供の多さ

〔機会〕・イノベーション・コースト構想等の復興に向けた企業や研究機関の取組

- ・新型コロナウイルス対策で見えてきた社会全体でのオンラインの可能性
- ・文化財の活用に向けた法整備等

〔恐れ〕・家庭や地域を取り巻く困難な状況（経済的な格差、人間関係の希薄化等）

- ・避難地域の人口減少、風評・風化

今後目指すべき教育の姿

○育成したい人材

- ・急激な社会の変化に柔軟に対応していくことができる人材
（福島の復興・創生等社会や地域を担う力と自分の人生を切り拓く力を兼ね備えた人材）
- ・多様な個性を生かした、リーダー、プロフェッショナル等の多様な人材 等

○必要と考えられる資質・能力

- ・学び続けながら、他者と協働して、新たな価値を創造していくために必要な力（コミュニケーション能力等）
- ・社会の課題に対して主体性や当事者意識を持ち、粘り強く向き合う力（レジリエンス等）
- ・自己肯定と他者への寛容をもつことができる豊かな心 等

○10年間で目指す姿・「ふくしまならではの」教育

- ・課題先進県だからこそその「福島らしさ」を生かした、グローバルとローカル、デジタルとアナログ、学校と地域、総ぐるみの教育
- ・福島に人が集まる魅力的な教育の実現と教育水準の確保
- ・人生100年時代を見通したライフステージに応じた教育・学習の場の確保

（今後の検討事項）今後考えていくべき教育施策

※柱立てについては今後検討

- ・学校段階を見通した学力向上、健康・体力づくり
- ・学校と地域の連携・協働、地域や復興の課題を生かし人や社会と接する学びの場の設定、失敗を克服する経験ができる場の充実
- ・教員の役割の変化や外部人材の役割等を踏まえた教員の役割の明確化、多様なニーズに応えられる多様性のある教職員体制、教員の養成・採用・研修（教員の資質・向上、教員志願者の確保）、働き方改革
- ・オンライン・対面のよさの双方を取り入れたICT活用による学びの変革（1人1人に応じた個別最適化された学びと協働学習）
- ・特別支援教育や不登校生、外国人、帰国子女等への個別支援
- ・震災の教訓の継承、被災地域の教育復興
- ・学校以外の学び等社会教育等の充実 等